

講演会 & ライブ な日々 ㊿

古川 秀明

学校という居場所と新型コロナウイルス ～スクールカウンセラーは見た！～

新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、一斉臨時休校の措置がとられ、現在（この原稿を書いている5月24日時点です）も解除されつつありますが続いています。

そこで今回は臨時休校措置が始まった3月から現在までの、学校という子供達の居場所について、スクールカウンセラー（以下SCと表記）の立場から見た私の考えを書かせて頂きます。

一斉臨時休校中、教職員は交代で勤務します。

そして、自宅学習のためのプリントを配布する家庭訪問、電話などを通じて、子供の安否確認をします。休みが長いので、さぞかし子供達に異変が起こるのでは・・・と思いきや、みんな案外元気なのです。しかも、一斉休校に伴い、いつのまにか学校から消えた問題がいくつかもあります。

① 不登校

学校に通わなくてもいいのですから当然不登校も成立しません。そして今、不登校だった子供達が元気です。学校へ行く必要がないので、誰に負い目を感じる必要もありません。同じような報告を、引きこもりの若者を専門に扱っている仲間のカウンセラーからも聞いています。新型コロナウイルスの影響で外出自粛、営業自粛、テレワークなど、

家族が家の外に出ないのは、引きこもりという状態を目立たなくします。ずっと部屋から出てこなかった不登校や引きこもりの青年が、家族と一緒にコロナ関連のワイドショーを見ながら自分の意見を言ったりしているようです。中には引きこもっている自分の経験から、楽しい引きこもりの方法を自分の家族に教えている人もいます。その意見には「なるほどなあ」とうなずける所もあり、そうなる今までは日陰者だった不登校や引きこもりの人たちに、良い意味でのスポットライトが当たり、ほんの少しにせよ自己肯定感が上がります。その結果、普段より元気になれるというわけです。このように不登校の子は休校のおかげで元気ですが、その反対に元々学校が好きで元気な子はどうかという、みんなそのまま元気です。(少なくとも私が勤務する小学校から高校まで、学校に行けないから子供がノイローゼになったという報告はありません)。つまり、休校により、学校という「場」が無くなると(機能が停止すると)今まで元気がなかった子は元気に、最初から元気な子はそのまま元気であることが確認されました。1995年にSCが導入されてから、「不登校」は学校が抱える問題 NO.1です。そんな根深い問題を、新型コロナウイルスは皮肉にも、わずか3か月で解決してしまいました。

② いじめ

学校が休みとなり、物理的に学校内でのいじめは発生しません。私の勤務する学校でも報告されるいじめ事案はゼロです。(ラインやネットなどの見えないところのいじめも含んでいます)。子供に起こるいじめはほとんどが学校での人間関係から生まれますから、学校がないことといじめがないことは連動しているのです。その理由を学校の構造から考えてみましょう。学校は教室で区切られ、そこに同年代の子供が大勢詰め込まれます。同年代の子供を同じ場所に集めると、必ずいじめが発生します。これは子供達の性格や育った環境よりも、狭い場所に同じ歳の子供を大勢集めるという「場」の影響が大きく働いています。いじめ問題では、「社会問題」「親の育て方」「教師のクラス運営の在り方」など、様々な原因が論じられていますが、そのどれもが「学校ありき」で語られています。つまり、学校は存在しているものということの大前提にして、いじめの原因を探り、解決策を見出そうとします。そこに「もし学校がなかったら・・・」という発想はありません。それを新型コロナウイルスはひっくり返しました。もちろん学校がなく、登校できないことによる弊害は山ほどあります。しかし、いじめられていた子供にとっては、学校が閉鎖されたことで毎日の苦痛、心の傷、自殺などから守られているのも事実です。いじめは、学校という「場」がメインステージなのです。

③ 発達障害

発達障害を持つ子供の最大の苦痛は人間関係です。発達障害の子供が抱える「場の空気を読めない」「人との距離感がつかめない」などのコミュニケーションに関する問題の多くは、学校で起こります。家の中は、幼いころからその子が暮らしやすいように構造化されており、さほど問題は起こりません。発達障害を持つ子供達が、休校によってパニック

を起こしているという報告は、少なくとも私の勤務校では聞きません。家で快適に時刻表を眺めたり、ゲームをしたりしているようです。

④ 親の負担

学校がないので、食事など日常生活における親の負担は大きいでしょう。しかし、学校関係のストレスはありません。特によく学校で問題を起こす子供の親は、学校からの「実は今日も～君がこんな問題を起こしましてね」という、寿命が縮むような連絡を受けなくて済みます。また不登校の子供を持つ親は、毎朝学校に「すみません、今日も起きてこないで休ませます」という、とてもストレスフルな電話をしなくても済んでいます。

⑤ 児童虐待

臨時休校で虐待は増加しています。ただ、その増加率は想像するほど高くはありません。5月に報告された厚労省のデータによると、1月～3月の虐待対応件数は前年度より1～2%増で、コロナが影響しているかどうかは不明です。今後の推移を見守らないと何ともいえませんが、学校臨時休校で虐待対応件数が激増したのであれば、明らかにコロナが原因だと思われます。しかし現状では、子供が学校を休んでいるから虐待が増えたというよりも、親の経済状況やストレスが原因となっているのではないかと思います。

⑥ モンスターペアレントと教師の休職

子供が学校に来ないので親がクレームを入れる要因がありません。いくら理不尽な親でも「学校が悪いからコロナが蔓延した！」とまでは、さすがに言いません。

親のクレームもなければ手のかかる子供に振り回されることもない教師は、元気がないにしても、わざわざ休む必要はありません。教師にも在宅勤務が認められているので、あえて年休や時間給をとる人などいないのです。

「学校休校で発生する問題を考える」

1 <学力の低下>

休校による一番の問題は学力の低下です。だけど学校があろうがなかろうが、勉強する子はしているので成績は下がりにません。コロナが収束した後、もし学校がなくても、勉強の質だけで言えば、学校は学習塾にとっくに負けているので、学力維持は学習塾で十分です。また休校中にタブレットやzoomなどのインターネット機能を使い、対面式の授業を自宅で受けることが可能ですが、休校中にネット学習を実施した学校の生徒参加率は、毎回ほぼ100%だそうです。つまり今まで不登校だった子は教室で勉強することができなかったので、

学力も下がりますが、自宅に居ながらのネット学習であれば授業に参加できるので、不登校で全く授業に参加できない時よりも勉強量が増えると思われます。

2 <人間関係>

人間関係については学校でしか構築できません。しかし、それだけを考えるのであれば、同年代の子供達を狭い教室に大勢詰め込む以外の方法もあると思います。以上のようなことから、子供にとって「学校という居場所」の喪失が、様々な問題解決になり得ることが推察されます。

「まとめ」

こんなに良いことばかりがあるのだから「学校をなくしてしまえ！」などと乱暴で早計なことを言いたいものではありません。

今回の休校はウイルス感染防止の一時的な措置であり、それが当たり前になれば新たな問題は必ず起こるでしょう。

しかし今回の「一斉臨時休校」は、学校という子どもの居場所について、何か一石を投じているのかもしれない。

考えてみれば、新型コロナウイルス以外に日本中の学校を休校させる力のある存在はないのです。

不登校やいじめの解決策を考えるために、一度学校を閉めて様子を見ようという発想など誰も持っていませんし、意図的にそんなことを画策しても、数えきれないほどの問題に直面し、結局は現状維持に落ち着くだろうと思います。

ところがこのウイルスは問答無用で即実行に移させました。

コロナで亡くなられた方や、経済的に大打撃を被った方にはこれ以上の不幸はありませんが、‘教育現場’はここから何かを学ぶ姿勢があっても良いのではと思います。

学校という「場」は人間が編み出した素晴らしい教育システムです。後世に残すべき偉大なものです。

が、その制度が経年劣化を起こしていることも否めません。

教師も親もカウンセラーも、既存の学校システムの中で育っています。

言い換えれば、今の学校制度しか経験していませんし、それが揺るぎない常識となっています。

学校を閉鎖するという、自分が経験していないことを発想するのは難しいものです。

人間は未経験の領域に足を踏み入れることに強い不安と恐怖さえ感じます。

そんな臆病な私達に新型コロナウイルスは「ほら、学校を閉めたらこんな良いことがあるんだぜ」と、教えてくれているような気がします。

(そのやり方はとても脅迫的ではた迷惑ですが・・・)

今ある学校を残しながら、新しい「学校という子供達の居場所」を考える時が来ているのではないのでしょうか。

人類史上、ウイルスはいつの世も厄介なものですが、彼らを排除できない以上、共存し、逆にウイルスから何かを学ぶしたたかさも必要です。

そんな積み重ねが実を結び、いつか学校の問題が全部なくなる日が来たら素晴らしい。

あ、そうすると真っ先に SC は失業してしまいますね。

ま、ええか。

シンガーソングカウンセラー
ふるかわひであき